

# 第10回建築設計競技「母子未来センター」

## 審査講評

★応募作品46点中、第1次審査第1回投票で各審査員(建築士4名)が選考した10作品についての講評

小倉暢之(琉球大学工学部教授・審査委員長)

### 総評

この度の「母子未来センター新築工事に係る建築設計競技」は、本会が一般社団法人沖縄県助産師会より委託を受けて全国的にも注目される先端的助産施設の案を競うものです。助産師会の皆様の熱意と応募作品総数46件という建築士の皆様の意気込みに、審査委員一同二日間に亘る白熱の議論を展開して最終的に全会一致で優れた当選案を選出できた事は喜ばしい限りです。

「子どもが健やかに生まれ育つ環境づくりを行うと同時に地域の中で母と子、家族がいつでも集える場所の一つとなり、女性のパートナーとしての健康支援を行うための施設。」というテーマに対し、敷地、予算規模、施設内容等の与条件の厳しい中での設計はそれらの読み取りと共に相当な技量を必要としますが、応募作品の中には様々な提案やアイデアが見られ、コンペの意義が十二分に発揮された内容でした。

審査は二段階審査により、一次審査で優秀賞3作品と佳作2作品を選定し、二次審査で優秀賞3作品のプレゼンテーションとヒアリングを行いました。一次審査に漏れた作品の中にも優れた多くの作品があった点は報告しておかなければなりません。しかし、最終的に当選した案は総合的にテーマをよく具体化し、明るいセンターの未来を感じさせるに相応しい内容を明快に表現しきった点が高く評価されます。

今回のコンペが建築士会々員に大いなる啓発となり、また、魅力的な母子未来センターが地域社会に大きく貢献してゆく事を願うものであります。

### 個別評

#### 作品 No.11 創建設計事務所

機能別に大小二つのボリュームにスッキリまとめ、また、大胆な円弧のボールド屋根で優しく包み込んだデザインは母子センターに相応しい雰囲気醸し出しています。大小の円弧が形成するファサードはバランスよく印象的です。しかし、内部はかえって無理にまとめた格好となり、これが最下階の階段室エリアの暗さと玄関ホール待合いの閉塞感に表れました。また、建物間のテラスの性格付けにも一工夫欲しいところです。

#### 作品 No.13 a+(エイプラス)

主要階を敷地一杯に伸び伸びとL字形に平面をまとめ、中央に楕円形のシリンダーを効果的に組み込んだ造形にはインパクトがあります。そして敷地の傾斜面を大きくとって開けた庭としているのも魅力的な空間です。一方で、それに伴って入院室が階段状に配置され、スロープが通路を小刻みに覆ってしまった点は一番の難点です。出来るだけエレベータを使わずにゾーニングを処理しようと試みた意図は読み取れます。

#### 作品 No.20 義空間設計工房

この案の大きな特徴は、前面道路に対して敢えて背を向けて入り口を奥まった内部に設けた点にあります。敷地向かいが墓地という制約から、敷地周辺の雰囲気をアプローチの取り方によって切り替え、中庭を中心とする視覚的繋がりの豊かな内部空間の確保に努力の跡が窺えます。ただ、玄関ホール周辺の内部空間がその期待に十分応えているか、また、最上階は本来他の部屋と独立しているべきものか疑問が残ります。

### 作品 No.24 エー・アール・ジー

三層構成により夫々の階にゾーニングがほぼまとまっていて明快な配置計画になっている点は評価されます。また、前面道路と建物の間に駐車場とパーゴラを設けて引きをとって前面墓地の影響を軽減している点も巧みな手法です。外観を大きく決定付けている緑の壁面は、その実現性については常時意図通りの緑が確保できるか等のリスクが予想され、設計の中心テーマでもあるだけに慎重を要すところです。

### 作品 No.28 デザインネットワーク

大胆な楕円形の組み合わせによるデザインは本作品を一番よく特徴付けています。さらに、内部空間の魅力は中央の吹き抜けによって全体が一体感を持っている点にあります。他の作品に比べて一際目を引く作品でありながら選外になった惜しい作品の一つですが、この場合は曲面の多用が小刻みに仕切られた内部空間の機能との整合性にマイナスに作用した点は否めません。また、これだけの造形であれば構造にも一工夫欲しいところです。

### 作品 No.33 名工企画設計

この案も他案にいくつか見られる全体を大小二つのボリュームに分けて間にテラスを設ける計画の一つで、分割によってスケールが住宅のような親しみ易い雰囲気を出している点は評価されます。さらにアマハジとテラスの組み合わせも自然で伸びやかな外部空間となっています。惜しまれるのは、地下駐車場と入口の雰囲気が暗くて管理上死角になり易く、利用者へ一層の配慮が求められます。

### 作品 No.38 国建

予条件の厳しい中でそれらを無理なく、かつ魅力的に解決しようとした設計技量は高く評価されます。ここではサンクンガーデンを取り囲むように諸室が片廊下を主体に配置され、接地階には施設の主要部分である入院室が周辺空間との心地よいハーモニーによって生き生きとした空間になっています。医院の病室とは異なるゆとりのある空間の魅力が感じられます。また、全体にシンプルな構造で将来の変化にも柔軟に対応できます。

### 作品 No.39 myu設計

外装計画や構造計画に至まで細やかに案が練られている作品で、取り分け穴空きコンクリートブロックをランダムに配置したスクリーンを全面に配置した外観は戦後沖縄近代建築の伝統を正統に主張している感があります。各階の中廊下は分かり易い配置ですが、家庭的な落ち着く雰囲気が特に入院室に配慮されていたら近代的機能主義の克服ができたのではないのでしょうか。ことに地下階の長い廊下には工夫を要します。

### 作品 No.43 クロトン

この案の特徴は敷地の捉え方であって、前面墓地との関係を大胆な円弧状擁壁で深い引きを取って縁を切り、コンパクトな箱形に機能を詰め込んだ点が他の案に無いユニークな案になっています。コンパクトな割に入院室の雰囲気が豊かなのは接地階に配置して平面的広がりを確保しているからでしょう。計画方針全体は評価されるのですが、中心となる擁壁の設計にもう少し密度を上げる余地がありそうです。

### 作品 No.46 K・でざいん

エントランス階の喫茶室を巡る周辺空間は楽しい雰囲気が出ていて魅力的です。下階の広場へのアクセスも二つのオープンな外部階段で繋がり、敷地一杯に広がりが確保されているのも明るい母子の未来を感じさせる良い演出方法かと思われれます。こうした外部空間の豊かさに比べて、内部空間について目を向けてみると他案にある同じような収め方であり、外部と同じ様な密度の濃さを盛り込んで欲しいところです。

#### 作品 No.14 久友設計

「命の樹」。この作品は、全出品作のうち、唯一高層化(地下1階地上5階)を提案した。コンセプトは、一粒の種から生まれ育つ大樹。助産所はまさにひとつの命が誕生する神聖な空間。外来診察室エリア、入所・分娩室エリアと研修・事務エリアなどをエントランスを介して縦の動線で結合させている。敷地をうまく配分して、平面駐車を可能にした。近接する墓地と対比すると、永遠の生とつつな命が印象的。高層化した分、避難階段の占める面積が過大になった。

#### 作品 No.19 団設計工房

段差が5mもある敷地のグランウンドレベルを半階分下げることによって1階部分に平面駐車と協会事務所と研修室を配置し、多目的室は三面採光の明るい工夫がなされ、さらに エントランスを2階レベルに置き、外来エリアと入所エリアを明確に分離している。全般的にうまさがる設計。ただ、交通量の多い道路と駐車場の出入りに難がありそうだ。お腹の大きな妊産婦が、ハンドルを取るのにゆとりと安心感が欲しい。

#### 作品 No.21 チームドリーム

がじゅまるの木蔭のような母子未来センターのコンセプトは、天蓋付きのパティオと多目的室のつながりに良く出ている。パティオは親子のふれあい、研修、イベントの場として魅力的だ。多目的室で研修を行う時などを考えると、事務室と隣接させたい。また、パティオからの外来妊婦のプライバシーへの配慮がほしいところ。後背地通路は建基法上、道路とみなせない(Q33)ため、西側道路に接道させる必要があるとみられる。敷地を人工地盤として、高低差を解消した案はユニーク。

#### 作品 No.23 新環境創造研究所

お産の杜とは、緑あふれる自然な環境での自然な出産をする場。敷地に隣接した緑地からは南東の風を呼びこむ工夫がなされている。地下1階に多目的ホールと屋内広場や雨水を貯める水槽などを配置。1階には平面駐車場とエントランス、事務室エリア、2階に外来エリアと入所エリアを配置してゆとりの空間を演出している。妊産婦は静かな雰囲気でも過ごしたいし、お産の音が漏れるなど、二つの機能を同一階に配置するのは慎重に考える必要がある。夜間時の仕切りは外来エリアも仕切りたい。

#### 作品 No.26 バウ設計集団

まちなみの構成要素として、大通りに対し平行軸を設定。地階に駐車場、1階に研修・事務エリアと助産所外来エリア、2階に入所エリアを配置する明快な配置計画となっている。さらに敷地の高低差を考慮したサンクンガーデンなどきめ細かな配慮がなされている。しかし、駐車場計画では、Q33で示す、敷地内通路からの地下駐車場へは進入不可との見解があるため、見直しが必要と思われる。また暗くなりがちな地下駐車場は、近隣には外国人や不審者の横行などがあるため、妊産婦の不安感がぬぐえないなどの意見があった。

#### 作品 No.38 国建

この作品のコンセプトは、サンクンガーデンのある母子未来センター。入所エリアを1階に配置し、妊産婦が自然に近い位置で静かに安らげる空間を提案。1階だと、育児ノイローゼで飛び降り事故も防止できるとの委員の意見もあった。2階にエントランス、外来エリア、3階に多目的室、事務室を配置した明快なプラン、シンプルな動線、シンプルな構造計画で将来計画への可変性も考慮されている。明るい片廊下、道路からの建物の引き、平面駐車と雨天時の配慮など高く評価したい。

## 作品 No.39 myu設計

この作品は、自然のうつろいを感じながら命が生まれるイエとして提案された。マタニティ・ブルーと表現される出産者の不安な気持ちを受け止めている。光、風、鳥のさえずりを感じながら安らいだ時を過ごす工夫は魅力的。1階の平面駐車場、エントランス、外来エリア、と2階の助産・入所エリアの分離と動線計画も好ましいと思う。地下の細長いギャラリーや水盤の演出などにもうひと工夫がほしいところだ。

## 作品 No.40 国建

この作品のコンセプトは、母と子と地域が繋がる助産所。道路レベルから一段下がった低層案。作品No.14に対比する案でもある。中庭に面する心地よい雰囲気は、リゾートホテルのコテージのような分棟配置で、中庭、路地の構成が設計の力を感じさせる。敷地境界と建物がつくる緑地を中庭に結びつけて広がり演出する意向も魅力的。外来エリアと入所エリア、あるいは多目的スペースとの空間が特徴であるが、外来と入所者のプライバシーを配慮した、開いて閉じる機能が必要ではないか。

## 作品 No.44 テインアーキテツ

「環境と呼応する建築」。全出品作のうちプライバシーとパブリックの両面から分析し構成した唯一の提案。出産・育児の不安を抱える妊産婦への配慮と地域に開かれたオープンスペースとの共存など、難しいテーマを真剣に取りあげている。隣接墓地との緩衝としての緑のカーテンも魅力的。お腹の大きな妊婦が不安定な姿勢で幼い子供をつれている風景を思い起こすと、広場に面する大きな階段に安全上のひと工夫が欲しい。

## 作品 No.46 K・でざいん

「命が賑わうバシヨ(拠点)」。母子未来センターは、助産師会設立以来の願望であった拠点となる。ここでは分娩を助けるだけでなく、妊婦・褥婦・新生児の保健指導や家族計画・性教育などコミュニケーションの場として大いに期待される。この作品は、カフェとダイニングを気持ちの良い空間としている。1階に事務室と多目的室、2階に外来エリア、3階に入所エリアを配置した他の作品と似たような提案になったのが惜しい。

## 仲元典允(沖縄県建築士事務所協会会長)

### 作品 No.12 FAD

自然の地形に配慮し、入所施設の屋上緑化や外部デザインのシンプルな設計手法に好感的でした。ただ、平面計画として入所室への動線が、キッチン、ダイニングとのバツティンク、廊下側にスロープ設置が気になります。入所室への南向きは良い提案です。

### 作品 No.21 チームドリーム

平面計画上、助産院と助産士会事務所の動線を明確にし、管理のし易い単純な提案であり、パティオに大屋根架構と沖縄の風土を考慮した手法である。しかし駐車場と玄関へのアプローチ動線や入所室の西側への配置故に、室内環境に難が残る。

### 作品 No.24 エー・アール・ジー

駐車場、建物、緑地と明確なゾーン計画である。外部デザインも西日対策としてダブルスキンを設置し、緑化する提案は建築保護では有効な手法である。しかし視界が妨げられる難点もある。1, 2階の平面が単廊下型式は病院施設を感じさせる。



### 作品 No.26 バウ設計集団

3階に研修室部門、外来部門、2階に入所部門の構造ですが、1階の動線機能が多少複雑に感じました。又、1階の研修部門の屋根を屋上広場の提案は良いのですが、入所部門との連続的な繋がりが欲しかったです。又駐車場が全て地下に設置され背後地通路からの出入口も気になります。

### 作品 No.29 アトリエ・ネロ

道路の面する西側に駐車場とアプローチ部門を計画し建物を円弧に設定したかなり奇抜な提案です。その結果西側に面する所室が閉鎖的となり街並みに対しても閉じた計画となっている。1階に入所室、研修室が混在し動線が複雑に感じました。屋上を階段状として緑化し積極的利用する提案は好感を感じました。

### 作品 No.30 建築アトリエトレッペン

研修部門と外来入所部門のアプローチを駐車場を介して分離した提案である。1階の駐車場、アプローチ部に広い面積が確保され、外来、入所部門がかなりコンパクトに構成され結果的に中廊下型式となり各室がかなり混在し病院施設を感じました。又研修室の完全なる動線分離が管理運営上気になりました。親子ふれあい広場の提案はくつろぎながら交流できる広場となるでしょう。

### 作品 No.33 名工企画設計

アマハジ空間を有して、助産師会と助産所の動線分離した分棟型は管理のし易い提案です。ただアマハジ部にスペースが大きくなり、助産所ゾーンがコンパクトになり入所室等が中廊下型式となり多少閉鎖の感があり病院施設を感じさせる。

### 作品 No.36 アトリエ・ノア

中庭と中心として、外来エリア、入所エリアを廊下で接続し回廊型の独創的な提案となっている。その結果居住ゾーンが隣境界に接近しすぎているのが気になった。各階をアプローチ地盤よりスキップさせる提案が逆に使いづらくするのはとの指摘がありました。建築的には魅力的な計画となっています。

### 作品 No.38 国建

道路から直接アクセス出来る2階に外来助産所、3階に研修室部門、1階に入所室と非常に明確に単純な構成となっている。動線も単純であり各居室が片側廊下で開放的な空間の提案である。外部デザインも非常にシンプルな構成となっている。又、入所室、サンクンガーデンの連続性も良い提案です。

### 作品 No.39 myu設計

研修室部門、外来部門、入所部門を階別に構成させ動線が単純明快です。2階の入所部門も中廊下型式ですが中間にスリットをもうけ中廊下を感じさせない提案です。地下研修室のギャラリーが暗くてトンネル状態になっているのが残念です。ファサードにコンクリートブロックでダブルスキンの提案は時間の経過による変化に街行く人々の心が和むファサードとなるでしょう。

## 伊志嶺敏子(日本建築家協会沖縄支部監事)

### 作品 No.13 a+(エイプラス)

#### やさしさの設計

歩車分離で歩行者の安全のための歩道を設け、その先の方には雨天の日のため不自由しない車寄せとなっている。その連続性は、設計者のやさしさへのこだわりであろう、と察する。内部への配慮にも、そのことが数々読みとられる。しかし、あの高低差のある敷地、どのようにコストの面で現実的に解決するのだろうか。

### 作品 No.18 エン設計

#### 屋外テラス

東西軸で敷地を二分割するように南側を外部空間、施設建築を北側に配置し、無理のない計画となっている。南東の角を開放し、上部GLレベルを駐車場、下部GLをテラスという外部空間の立体的な構成が、内部空間の採光、風通しの良さに功を奏している。

### 作品 No.19 団設計工房

分かり易く、使いこなし易い内部空間明確な領域分け、単純な動線。そのような分かり易さは使いこなしに通じると考える。手なれた設計である。単調になりがちな中廊下も、程良く外部に通じる「抜け」を設け、欠点を解消しているが、一方産院らしく病院にはない雰囲気はどう創り出せるのかという課題を残したように思う。

### 作品 No.20 義空間設計工房

#### シンプルでわかり易い構成

敷地の高低差が大きく、複雑な地形をどう飼いなすのか、この度の設計にとって重要な課題のひとつだととらえている。この作品は、「育みの庭」という中庭を核とすることで解決している。軒高を低くおさえ、道路側からのヒューマンスケールなプロポーションにもうまくいっている。更に2階に設けられているダイニングキッチン心地いい場所に設けられている。ところが残念ながらスタッフ人数は常時3人ということになれば運営上の現実にあぶつる、という課題が残ってしまう。

### 作品 No.28 デザインネットワーク

#### 興味深い発想

ややもすれば結露リスクをかかえる地下壁をドライエリアの隙間で縁を切り、その隙間をガーデニング化し、そしてそのまま地形の中に在る。そのように地形を建築化する、というアイディアのユニークさ、おもしろい。その隙間につくられるガーデニングの魅力により引き立つこの作品、そのメンテナンス力をどう成立させるか、テクニク手法、人的サポート組織化まで提案できれば、尚一層説得力のある作品となったであろう。このような課題は我々建築家の大きな課題でもある。

### 作品 No.30 建築アトリエトレッペン

#### 魅力ある広場

この敷地の難点、道向こうに墓がある。それを視界から遮るように建物を配置し、その建物で北風から守られる明るい場所に「親子ふれあい広場」を配置している。更にその広場は隣地の雑木林、その先の小学校の運動場へと視線が借景として連なっている。沖縄の伝統的空間の構成が継承され、環境共生の基本的骨格を成立させている。但し、EV2基でそのことを解決したのは残念、更に練り上げてほしいものです。

## 作品 No.33 名工企画設計

### 棟と棟の間から始まる快適空間の創出

助産所と助産師会を分棟化しながらも半戸外空間でつなぐ。管理上合理的であるのと同様に、光と風を十分に導く装置として在る。それは沖縄建築の重要な手法のひとつともいえる。土足厳禁という与条件の中で上下足の動線が明確に分けられているのは大変評価できる点ではあるのだが、スタッフの上下階とのはき物動線が途切れてしまうのは残念。限られたスタッフでのスムーズな運営、よりリアルな検討が望まれるところです。

## 作品 No.36 アトリエ・ノア

### 地形に寄添う配置で安心感の創出

階高を低く押え二階建て低層を提案している。道路側からの景観は平屋で水平にのびる簡素なたたずまいは好ましい。内側に入ると中庭を囲む施設計画となり、開放的な空間が展開されて自在な雰囲気予想させるものがある。一方、個の領域にはプライバシーにグラデーションの仕組みもあり、安心感ももてる。ただ、設計の趣旨が敷地の高低差という難問に現実的にすべて対応できたか、という問は残る。スロープの多さ、長さ、なかなか難しいものである。

## 作品 No.38 国建

### サンクンガーデン手法を用いて難問解決

周囲の状況を含め当該敷地は多くの難問をかかえている。この作品は、サンクンガーデンを用いることにより、鮮やかにその難問を解いている。ランドスケープデザイン的手法で、外部空間が活きている。外部空間は余白ではなく、ましてや隙間でもなく、全てに意味を持つ。そして、まさにシンプル・イズ・ベストを感じさせるものがある。それはまるで洋裁の裁ち残しの端布というものではなく、和裁の布の裁ち方、全ての布に用途があるように。

## 作品 No.39 myu設計

### 自然と共に在ることを主題として

陰のあるところに涼風あり。沖縄に暮らす私達は無意識のうちにそのことを体得しているが、その無意識を意識化し、そして再構成する役割を地域の建築家は担っていると思う。この作品はその成果を設計に反映している。配置計画をはじめ、日射遮蔽の装置化、構造計画等々、環境共生の手法が活かされていて評価に値する。しかし、ドラフト効果を狙ったBFへの吹抜け階段と池、はたして安全だろうか。再検討が望まれる。